



代表取締役社長

佐野 健一

2030年のゴールに向かって、 長期経営計画「HOKKO Value Up Plan 2030」を推進

はじめに、新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた皆さまに謹んでお悔やみを申し上げますとともに、罹患された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、感染拡大防止に尽力されている医療関係者をはじめとする多くの方々に衷心より敬意を表します。北興化学工業グループは、役職員の安全確保を図った上で、引き続き、製品の安定供給に努めてまいります。

前期(2021年度)は、2030年度をゴールとする長期経営計画「HOKKO Value Up Plan 2030」のスタートの年として、企業価値向上による持続的な成長とサステナブルな社会の実現に向けて着実な一歩を踏み出しました。新型コロナウイルス感染症の発生からはや2年が経過し、その影響は、引き続き見通しにくい情勢が続いていますが、前期業績につきましては、売上高はわずかに目標に及ばなかったものの、経常利益などの目標については達成することができました。

2022年度におきましても、「強く、豊かなHOKKO」を目指し、『収益構造改革』、『造り方改革』、『働き方改革』に基づく取り組みを推し進め、〈1st Stage for Creation〉(2021~2025年度)の最終年度である2025年度には目標売上高465億円、経常利益44億円を達成し、次の5年間〈2nd Stage for Advance〉(2026~2030年度)の間中には、売上高500億円、経常利益50億円を超えて、あるべき姿への到達を目指してまいります。

SDGsへの取り組みについては、2021年度は概ね計画どおり進捗し、2022年度は、新たに、温室効果ガス排出削減に向けて、カーボンニュートラル、気候変動対策への取り組みを推進していきます。これらの取り組みにあたっては、従来から取り組んでいるレスポンシブル・ケア活動*や、省エネルギー活動をさらに強化して対応してまいります。

当社は、2022年4月にスタートした東京証券取引所の新市場において、スタンダード市場に移行いたしました。この新市場において、〈1st Stage for Creation〉の目標の達成に経営資源を集中し、さらなる企業価値向上および〈2nd Stage for Advance〉におけるValue Upを確実なものとするとともに、プライム市場において求められる水準をも視野に入れて、引き続き経営の質の向上、ガバナンスの高度化に取り組んでまいります。

ステークホルダーの皆さまには、本レポートを通じて、当社グループについてご理解を深めていただくとともに、今後の活動に向け、皆さまからの忌憚のないご意見を賜ることができれば幸いです。

2022年5月

*レスポンシブル・ケア活動：化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄に至る全ての過程において、「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し社会との対話・コミュニケーションを行う自主活動を展開しています。この活動を「レスポンシブル・ケア(Responsible Care)活動」と呼んでいます。本レポートでは、「レスポンシブル・ケア」を略して、「RC」と表記することもあります。

■企業理念

「社会貢献」「環境」「技術」を経営のキーワードとし、全ての人々の幸せのため、食糧の安定供給に寄与する安全で安心な農薬製品および産業活動を幅広く支えるファインケミカル製品を社会に提供していきます。

■経営の基本方針

『企業理念』の実現に向け、立案した事業計画を着実に実行することにより、持続的かつ安定的な成長を実現し、国内外の産業の発展と豊かな社会づくりに貢献します。また、取締役会を中心とした経営の自己規律のもと、中長期的な企業価値の向上を図るとともに、社会に信頼される企業であり続けます。